第　５　号

定価一年間３００円
組合員の購読料は
組合費に含む

ひやま

発行　檜山教職員組合

〒 043-0056　江差町字陣屋町 86-1
℡ 0139(52)0858　FAX(52)1490
発行責任者　　石　橋　英　敏
E-mail: hiyamakyoso@proof.ocn.ne.jp

【賃金に関する勧告概要】

(1)月例給は、公務が民間より655円(0.16%)低いので、初任給を1,500円、若年層についても1,000円程度、その他は400円の引上げを基本に改定
(2)ボーナスは民間の支給割合に見合うよう、現在の4.40月を0.05月上げて4.45月とする。引上げ分は勤勉手当に配分
(3)宿日直手当について、宿日直勤務対象職員の給与状況を踏まえ、所要の改定
(4)住居手当は、受給者の増加の状況を注視しつつ、公務員宿舎使用料の引上げも考慮して必要な検討

【ボーナスの支給月数】

		6月期	12月期
2018年度 (H30)	期末手当	1.25月(支給済)	1.35月(改定なし)
	勤勉手当	0.90月(支給済)	0.95月/再任用0.475月
2019年度 (H31)	期末手当	1.30月/再任用0.725月	1.30月
	勤勉手当	0.925月/再任用0.45月	0.925月/再任用0.45月

勧告前の要求行動(国家公務員労働組合連合会)

2018年人事院勧告

国家公務員

5年連続引上げ勧告

されど、生活改善ほど遠く…

8月10日、人事院は国会と内閣に国家公務員の給与に関する勧告と報告を行いました。民間との比較で、給与について65円0・16%、ボーナス(一時金)について0・05月を引き上げることを柱にしています。

5年連続のプラス勧告は、現場の切実な要求とそれを受けた粘り強いとりくみの反映です。しかし、その水準は、公務労働者の生活改善を図るにはほど遠いものです。民間も含め、働く人々全体の賃金水準の底上げが必要です。

この後、9月中下旬に北海道人事委員会との交渉が行われます。公務員の賃金は、労働者一般の賃金を決定する社会的な指標ともなります。教職員が背負う実態と合わせ、全ての労働者の生活改善につながる共同の要求運動が重要となります。

なお、勧告とあわせて、定年延長に必要な法改正を求める「意見の申出」も行われました。しかし、給与水準を60歳前の7割に引き下げるとしており、重要な労働条件にもかかわらず十分な協議もなく一方的に給与引き下げに言及していることは問題です。今後の課題になります。

2018年度檜山合同教育研究領域問題別集会

子どもに寄り添う

改めて実感

報告・分科会で聴き語って交流

8月25日、乙部町で檜山合同教育研究領域問題別集会が行われました。江差小学校の野口真弓先生が、「養護教諭の視点から見た、子ども・学校・地域」と題して、報告しました。

教職を振り返る野口真弓先生

高校時代、白衣とヒール姿の保健室の先生に憧れて養護教諭をめざした野口先生は、「現場では白衣もヒールも非機能的、白衣を脱ぎ捨て上靴で仕事をした」と。初任校は海浜の小学校、主な子ども対応が、海遊びで体のあちこちに刺さったウニの棘外し、そして耳垢掃除だったというお話に会場は笑いに包まれました。

「管理職も職場の先輩もみんな優しく、安心して仕事ができ、一人職種でも何も寂しくなかった」と振り返ります。事故や病気で命を落とした子どものことが脳裏から離れることがないと言う野口先生、「何もしてやれなかった」と悔しさを滲ませました。

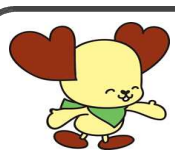
近年、職員同士での語り合いが薄くなってきたことを心配し、「子どものことを話し合う職場環境がとても大切」と説きます。

野口先生は、「これまでやってこられたのは子どもたちからのパワー、『ありがとう』『元気出た』と言う子どもの言葉が最高」と話を結びました。

参加者の渡邉真理さんは、「子どもに寄り添うことの大切さを再確認した」と感想を述べました(裏面に掲載)。次号から「報告要旨」を紹介します。

関連記事を裏面に掲載します。

野口先生の報告を聴く参加者＝ユニークなお話に会場も大笑い



うれしいとき、かなしいとき
にあなたを応援します。

総合共済　**月々600円**

●結婚祝金に10,000円
●出産祝金で5,000円
●災害見舞金に10万円(全壊)
など他にもいろいろ

さらに退職時には
掛金が
全額戻ります!

2018檜山合同教育研究領域問題別集会から

全国教研を還流

8月17日～19日に長野市で開催された教育研究全国集会に桧山から参加した報告者の感想が還流されました。その要旨を順次紹介していきます。

瀬棚中学校　笹原　昌子さん

「子どもにとっての学校」考えさせられた

「不登校・登校拒否の克服」分科会で、一昨年度まで関わった不登校生徒との3年間について報告。父母・保護者はじめ多方面からの参加があり、多様な討論が交わされた。親たちの思いは切実で、学校の存在そのものを鋭く問うものだった。我が子の苦悩を一身に背負い、時に学校への「失望」を色濃く滲ませながら訴える姿に衝撃。一瞬、学校が否定されたような感情が走ったが、聴くうち「学校って何だろう」と自問自答することに。自校の職場と重ねて考えた。

過度な「スタンダード」で均質化していく学校、その一方で「規格」から疎外されていく子どもたちの行方が心配されている。私の勤務校もそうした大きな風の中にある。でも、子ども論議が生きている。遠慮なく語り合える気風が残っている。不登校に対する考えに違いがあってもお互いの意見に耳を傾け合える関係がある。そんな中で私も支えられ、不登校の子どもたちと向き合えた。自由に語り合える学校の存在意義を痛感した。

教育機会確保法も話題になった。「不登校対策」として「特例校」を設けるという動きに、違和感を持った。既存の学校の外に多様な場を設けていくということらしい。居場所が増えること自体はいいが、学校を問うことなく、子どもの問題とされてしまうことへの警戒感が親たちから示された。

「一番困っているのは子ども自身、言葉にならないしんどさをどう受け止めるか」―そんな発言に納得。子どもに関わる人々がどのようにつながり合うか、深く考えさせられる学びの旅となった。

分科会で交流

子ども・学校・社会・・・豊かな眼差し、大きな視野

職場づくり分科会で実態交流

3つの分科会で実態や取り組みなどを交流しました。

学級づくり分科会では2つの小学校から実践報告があり、子どもが背負う発達課題や成長の足跡について討論が交わされました。もがき苦しむ子どもの姿をリアルに捉え、その中に成長への願いを読み取りながら関わることの大切さが強調されました。

職場づくり分科会では各職場の様子を交流しながら、同僚との関係づくり、働き方の実態と課題、保護者や地域、社会との関わりなど多様な視点から意見が交わされました。子どもの教育について開かれた議論ができる環境や関係性が重要であると話し合われました。また、個々の教職員や学校だけの努力には限界があること、社会の動向や教育政策にも視野を広げた対応が必要との問題意識が確かめられました。

教育困難克服分科会では不登校の子どもたちを中心に議論が交わされました。「登校」の是非から子どもへの対応が求められることの問題が指摘され、その子の事実と願いから出発する向き合い方と関わりが大切であるとの意見が出されました。

分科会を通して、現場や実態をリアルに見つめ、豊かな眼差しで子どもたちと向き合うこと、そして、直面する課題を解決するためには、外に開いた社会的な大きな視野に立って、広く関係者との共同が育まれるとりくみが大切であることが明らかにされました。

野口報告に学ぶ

「内面を見ようとする目」大事にしたい

江差北小学校　渡邊　真理さん

野口先生の実践から、改めて、「子どもを軸とした子どもに寄り添う教育の大切さ」を再確認できました。

多忙すぎて日々の仕事をこなすことでいっぱいいっぱいです。しかし、どんなに忙しくても、学力を上げるだけじゃなく教師として大切にしなければならないことがあるよな～と、しみじみ思いました。

人の話を積極的に聞くこと、自ら話しかけていくこと、そうして人との出会いを大事にきずなをつくり上げていくこと、子どもの裏（内面）をみようとする目―野口先生が大切にされてきたことを受け継いでいきたいと思いました。

文化活動講座　参加者の感想

子どもの気持ちになって

8月18日に開催された第49回文化活動講座には13名が受講。参加者の感想を紹介します。

●一つひとつ細かい部分まで指導してもらった。ぶち合わせ太鼓の流れと、しっかり手を上げて叩くこと思いっきりジャンプをすることがよく分かった。

●部分ごとにとてもていねいに教えていただいた。腕も指もぷるぷるで大変だったが、とても楽しかった。時間があっという間に過ぎた。早速、学習発表会でできるよう子どもの気持ちになって指導したい。

●全身で表現してみて、太鼓の強弱やリズムなどむじかしいなと思ったが、リズムなどが合ってくると楽しく学ぶことができた。また、この時期に学習発表会で使えそうな演目を学びたい。

●久しぶりの太鼓で腕がパンパンだったが、最後の発表の達成感は、気持ちが良い。テンポの良い踊りなども練習してみたい。

●今回も楽しく学ばせていただいた。ずっと太鼓は少し大変だったが、みんなに負けないようにがんばれた。なかなか、この機会以外に太鼓などに触れることがないため、また参加したい。笛をもっと練習したい。

●一つのリズムは覚えられたが、通すとすごく難しい。それでも、やさしく教えていただいたので、楽しくがんばることができた。周りの人と助け合いながらがんばることのすばらしさを改めて学ぶことができた。

●太鼓の基本がよくわかり、指導に役立ちそうだ！　進め方や改善のポイントも、自分が指導するときの参考になった。横笛も久々に吹き、すてきな音色でもっと吹いてみたいと思った。とても楽しかった。心が通じ合うぶち合わせ太鼓になるように指導したい！

●細かく丁寧に教えていただき、わかりやすかった。構え方や叩き方など、子どもたちへの指導に生かしたい。3人で叩く一体感や助け合う大切さも伝えていきたい。踊りのバリエーションが増やせたらと思っているので、取り上げていただけたら嬉しい。

●太鼓の演奏を知ったこと。学習発表会の時に、ぜひ生かしたい。自分自身が学んだこと。子どもたちに教える時に、子どもたちもこのように感じるかもしれないということがよくわかった。自分の知らないジャンルについて学べたこと。こういう企画があるからこそ新しいことを学ぶことができる。また太鼓を！

●腕がプルプルで字が書けない。はじめてほめられた。

合同教育研究教科等集会 in せたな

■とき　2018年10月6日(土) 9:30 - 16:15

■ところ　せたな町立瀬棚中学校

● 講演　中村直樹氏(北海道教育大学函館校)

児童福祉が専門。子どもの貧困や虐待について研究されています。